

住田町役場



西側全景

選評

住田町は岩手県南東部にある人口六、〇〇〇人の町で、主たる産業は林業である。築五〇年を超えた旧庁舎の建て替えが計画され、二〇一二年に工期短縮と予算厳守のためにデザイン・ビルド方式によるプロポーザルコンペを経て発注された。そこには森林・林業日本一の町を目指すこの町のシンボルとして、地場産の木材を使い気仙大工の技術伝承を活かした木造建築の新庁舎を建設するという、当初からの明確な建設理念があった。地元の山林で伐採したスギやカラマツを地元の加工工場で集成材化し、その木材を使って地元の間連企業（大工や職人たち）が新庁舎を建設し、将来にわたって維持管理するという徹底した地産地消・地域循環型経済に基づく建設計画の理念である。その強い建築主の要請に対して異業種建設共同企業体である設計者、施工者が一体となって応えることにより、意匠・構造両面から全国の木造公共

建築のモデルとなる庁舎建築を実現している。この建物は地上二階建ての純木造建築物であり、主要構造部材はスギやカラマツを原木とする集成材で構成されている。燃えしる設計による準耐火建築物とすることによって、木質構造材（集成材）を被覆せずに内外で木材現しとし、意匠的にも純木造表現としている。また、屋根架構に構造的な工夫を凝らした大スパン無柱空間方式を採用することにより、将来にわたる機能変化に対応できるフレキシビリティの高いプランを実現し、利用者にとって快適で開放的な木造大空間を生み出している。

先述の屋根架構には独特のレンズ型張弦トラスを提案し、建物の幅にあたる二一・八メートルの大空間と三・六メートルの軒の出を実現している。このレンズ型トラスの上下弦材は地元の中断面集成材工場に製造した短い直線材（調達可能な最大長七メートル）を組み合わせてつく



ラチス耐力壁



レンズ梁の見上げ



ラチス耐力壁。建て方風景。



レンズ梁。建て方風景。

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2016年で57回を数えます。

< 2016年 第57回 BCS賞受賞作品 > 飯野ビルディング 大手町タワー／大手町の森 京都国立博物館 平成知新館 グランフロント大阪 高志の国文学館 ザ・リッツ・カールトン京都 住田町役場 東京スクエアガーデン 流山市立おたかの森小・中学校、おたかの森センター、こども図書館 日清食品グループ the WAVE 穂の国とよはし芸術劇場 プラット 八幡厚生病院本館 山梨学院大学国際リベラルアーツ学部棟 Ribbon Chapel 龍谷大学 和顔館 [特別賞] 札幌市北3条広場・札幌三井JPビルディング 日本橋室町東地区開発：室町東三井ビルディング、室町古河三井ビルディング、室町ちばぎん三井ビルディング、福徳神社

建築主

「森林・林業日本一」をめざす町に より ふさわしい役場庁舎

このたび、住田町役場庁舎がBCS賞の表彰を受け、心から感謝申し上げます。庁舎建設にあたっては、町のイメージを具現化する木造とし、木造公共建築物のモデルとなる建物をめざしたところですが、国内初の実用化となるラチス耐力壁や広い空間を実現したトラス梁、気仙大工の技による鎧張り、町民寄贈のスギの象徴木など、まさに「森林・林業日本一の町」を目指す住田町にふさわしい役場庁舎となりました。

更には、木質ペレットを使用した冷暖房システムや太陽光発電などの再生可能エネルギーの利用、自然換気・採光の自然エネルギーの活用、様々な省エネルギー設備の導入など、環境にも十分配慮した建物であります。

今後とも、住田町の大きな資源である森と木材を活かした「住田い町」づくりに取り組んでまいりますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



住田町長
多田欣一
Kin-ichi Tada



2階執務スペース。無柱の大空間。

設計者

より

地元と創り上げる「地域循環型」純木造庁舎



前田建設工業株式会社
執行役員 建築事業本部
企画・開発設計部長
鈴木章夫
Akio Suzuki

「住田町役場」では設計・施工一括方式のプロポーザルの段階から、町内産の木材活用と地元での加工・施工まで行う川上から川下までの「地産地消」と、構造体に庁舎としての安全性と高い意匠性とを両立し「木造の架構をそのまま見せたい」という明確な町側のビジョンが示されていました。プロジェクトを推進するにあたり、設計・施工・木加工と地域を含めたパートナーシップを構築し、柱と梁で構成された伝統

的木造建築の面影を残しながらも、レンズ型トラスとラチス耐力壁により、明るく開放感がある先端的な大規模木造建築を目指しました。竣工後、「木造」は利用者の五感に語りかける空間を創造できること、機能的にもエネルギー消費量など環境面で優れていることを改めて確認できました。大型木造建築の可能性を拡げたこの庁舎建設に携われたことへ感謝の意を表します。



交流プラザ

れるように工夫されていて、特に下に凸の円弧カーブに沿った下弦材については伝統工法の追掛け継ぎの原理を応用して引張力を伝達するなど、木造ならではの独自の解決が見られる。トラス梁は一・八メートル間隔に立つ外周柱で支え、外壁の随所に合板両面張り耐力壁や斜格子状のラチス耐力壁を配置している。特に後者は優れた耐震性能だけでなく、採光・通風が取り、意匠的にも非常に優れている。これらのユニークな構造要素にはディテールにも細心の配慮が見られ、木造技術を熟知した設計

施工者

より 「森林・林業のまち住田」で 木造建築をつくる意義

森林・林業のまち住田町で地場産の木材を用い、設計・施工一括方式で大規模木造の役場をつくるというプロジェクトでしたが、町と設計と施工とが一体となりそれぞれが知恵や技術を出し合うことで、木という温かみのある素材から迫力のある大型木造庁舎をつくりあげました。施工においては、育林から製材、施工を行っている地元の企業に参入してもらい、地場産の木材を地元のプレカット工場加工をするなど、

各セクションにおいて住田のネットワークを活用し木の特性を十分に活かすことができる高い技術力を結集し、スギの象徴木を磨き体験イベントで仕上げてもらうなど、地元へ愛される建物づくりを心掛けました。

震災復興最中のプロジェクトという大変さもありましたが、関係者皆様のご協力によりこのような素晴らしい賞を受賞できたこと大変感謝いたします。



前田建設工業株式会社
東北支店
作業所長
須崎太郎
Taro Suzuki



町民ホール

者の技量は高く評価されよう。最後に、集成材の制作から加工部分組み立てまでを分担して高品質の工場制作部材を現場に提供した地元の木材関連企業も含めて、前例のないトラス梁やラチス耐力壁などを現場にて高精度に実現した施工者チームの貢献もきわめて大きい。この建物は、建築主、設計者、施工者の見事な連携により実現されており、BCS賞にふさわしい作品として高く評価する。

【選考委員】
佐々木睦朗・六鹿正治・尾崎勝

計画概要

建築主：住田町

設計者：前田建設工業(株)
(株)中居敬一都市建築設計
近代建築研究所
(株)ホルツストラ

施工者：前田建設工業(株)
(株)長谷川建設

所在地：岩手県気仙郡住田町世田米字川向地内
竣工日：平成26年7月31日

敷地面積：7,881㎡
建築面積：2,405㎡
延床面積：2,883㎡

階数：地上2階
構造：木造